

# 設立十周年記念式典・ 記念講演会を開催しました

## 福島県森林土木建設業協会

福島県森林土木建設業協会は、令和五年十二月十五日、設立十周年を記念してホテル福島グリーンパレス（福島市）において記念式典と記念講演会を開催しました。

式辞で石川俊幸会長は、「東日本大震災を契機として、前身である福島県森林土木建設協議会を発展的に解散し、新たに新規会員を加え、平成二五年五月三一日に設立して以降、東京電力原子力発電所の事故、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化の影響により年々激甚化・頻発化する気象災害など、今までに経験したことのない事象に協会員一同総力で取り組んだ十年だった」と語りました。

また、林野庁では選ばれる森林土木事業（ESD）に向けての取組も始まっていることから、「適正工期、施工時期

の平準化、更なる設計積算の改善などを具申し、この森林土木事業をESDとして確立していきたい。我々を取り巻く環境は、働き手不足や後継者不足、時間外労働の上限規制など大変厳しい状況にあるが、安全・安心な地域づくりの為、協会員相互の連携を図り、福島県の発展に寄与すべく、従来以上に努力を重ねていく所存です」とこれらの抱負を述べました。

記念式典には、来賓として福島県農林水産部 沖野浩之部長（代理 鈴木秀一郎農林技術課長）、（二社）全国森林土木建設業協会 山藤浩一会長（代理 川野康朗専務理事）、（二社）福島県建設産業団体連合会 長谷川浩一會長（代理 鈴木武男副会長）、（公社）福島県森林・林業・緑化協会 小檜山善継会長をお招きしました。

また席上、これまで森林土木事業の振興と技術の向上に功労のあった次の会員を表彰しました。

前会長 会津土建㈱ 菅家 洋一氏  
前副会長 ㈱石見組 石井 敏也氏  
前理事 草野建設㈱ 草野 清貴氏  
元理事 ㈱水中組 水野谷正一氏

続いて、設立十周年を記念して刊行した記念誌を基に、設立の経緯、東日本大震災からの復旧・復興のための活動や県と締結した『山地災害防止等支援活動に関する協定』に基づく活動等、当協会のこの十年の歩みについて、事務局長から説明がなされました。出席した七〇名余の会員は、設立当時のことや震災からの復旧・復興のために手がけた事業に思いを馳せていました。

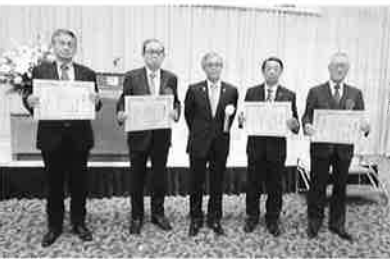
### 【記念講演会】

講師 学校法人聖光学院  
聖光学院高等学校 野球部監督 齋藤 智也氏

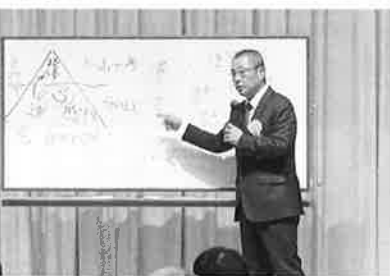
演題 甲子園への道  
（野球道をとおした人づくり、チームづくり）



石川会長のあいさつ



功労者の皆様の記念撮影  
（左から石井前副会長、菅家前会長、石川会長、草野前理事、水野谷元理事）



記念講演会  
聖光学院高等学校 野球部監督 齋藤智也氏

高校野球とは全く関わりのないような土木建設業の団体からの依頼だと思っただけという前置きで始まった講演は、前置きとは全く逆の熱のこもった口調で語られました。

監督就任時に課せられた課題が三年で甲子園に行くことだったこと等、劇的なエピソードを交えながら、齋藤監督自身も武士道を学ぶことで己を鍛え生徒達と向き合ってきたことなどが説かれました。

『人の有り様をピラミッドの階層や海に浮かぶ氷山に当てはめてみた場合、上から技、体、心と捉え、水面下に位置する心を徹底的に鍛え大きくすれば、技術や体力はついてくる。そして、野球の神様から運を得ることができた。よく言われる「心技体」ではなく「技体心」が大事だ」という話は、実践に裏付けられた話であり説得力がありました。

生徒達の心を鍛えることに多くの時間を費やし、部員一人一人がチームのためにプレーするという姿勢は、卒業後プロ野球に進み、WBCで世界一の立役者になった卒業生をして、聖光学院野球部でプレーした当時の控え選手がいつも自分たちにパワーを送ってくれたことを思い、自分もWBCの舞台で、最高の控え選手になれたと言わしめた話は、齋藤監督の教えが各人の人生に大きな影響を与えていることを物語っており、感慨深いものがありました。

齋藤監督の熱弁は講演会に出席した方々を魅了し、盛会のうちに講演会は終了しました。